

令和 8 年度
第 1 回人吉市まちづくり推進会議
会議録

日 時：令和 8 年 7 月 2 日(木) 10:00-12:00

場 所：市庁舎 3 階庁議室

出席者：[委員]

人吉市長

人吉市社会福祉協議会 会長

熊本県立大学 教授

東校区支部 支部長

西校区支部 支部長

人吉市消防団 副団長

人吉商工会議所 副会頭

人吉温泉観光協会 代表理事

人吉市文化財保護委員会 委員長

青井阿蘇神社 宮司

人吉市 PTA 連絡協議会 副会長

(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長

国土交通省 八代河川国道事務所 所長

熊本県 球磨地域振興局 局長

熊本県 球磨川流域復興局 政策監

松岡 隼人

柴田 祐

吉田 力

中村 良郎

宮本 隆博

北 昌二郎

鳥越 英夫 (欠席)

井上 道代

福川 義文

永田 政司

吉田 和樹

星尾 日明

中川 太介 (代理出席)

甲斐 奈美枝 (代理出席)

[事務局]

人吉市 復興支援課

上野 政信 課長、尾方 政康 課長補佐、

山田 千夏 主任

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

星野 裕司

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー]

人吉市役所 副市長

ハートビートプラン 代表取締役

溝口 尚也

泉 英明

[デザイン会議 随行]

国土交通省 九州地方整備局

末吉 仙吉 技術副所長、松本 敏幸 地域防災調整官、

田中 啓 技官

梶川 大志 参事

佐藤 弘康 主幹

井上 敬明 部長

田村 富昭 政策統括監

新津 瞬、田中 颯太

熊本県 球磨川流域復興局

球磨地域振興局復興・地域振興課

人吉市 復興政策部

ハートビートプラン

- 資 料：【資料 1 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議委員名簿】
【資料 2 令和 8 年度事業推進体制】
【資料 3 令和 8 年度の会議・全体の進め方】
【資料 4 中川原公園護岸工事について】
【資料 5 まちなか図書館について】
【資料 6 まちづくりフロー】
【資料 7 今年度の取組予定】
【資料 8 担い手との関わり方】
【資料 9 公民連携基本計画】

記録：田中

【決定・承認事項】

1. 今年度の推進体制について報告
2. 今年度の会議・全体の進め方について報告
3. 中川原公園護岸工事について報告
4. 昨年度の振り返り・今年度の取組予定について承認
5. 公民連携基本計画・今年度の進め方について承認

【会議録】

（１）開会・市長挨拶

（松岡市長）

- ・本日は大変多忙な中、第 1 回人吉市まちづくり推進会議に出席いただいたことに感謝する。また、日頃から本市の復興およびまちづくりに対し、深い理解と協力を得ていることに改めて御礼を申し上げます。
- ・本市ではこれまで「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン」（以下、アクションプラン）を作成し、昨年はアクションプランに基づき、様々な社会実験等の取組を実施してきた。これらに協力いただいた方々にも、改めて感謝を申し上げます。
- ・本年度は、昨年度の社会実験の検証結果を踏まえ、さらに具体的な事業化に向けた取組を進める。球磨川テラスやサードプレイスとしてのまちなか図書館の整備など、各エリアで段階的に事業を展開していく。
- ・地域の価値を高めて持続可能なまちづくりを進めるためには、公民連携によりいかに民間投資を呼び込むかが重要な課題である。6 月 24 日に公表した「人吉市公民連携基本計画」に基づき、官民で将来像を共有しながら体制づくりを進めていく。
- ・本日は、昨年度の振り返りと本年度の取組予定、および公民連携基本計画の本年度の進め方について審議を賜りたい。忌憚のない意見を願います。

【報告事項】

（１）今年度の推進体制について

【資料 1 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議委員名簿】

（溝口 PM）

- ・本日より、新たに以下の委員が推進会議に参加することとなった。

人吉市消防団 副団長：宮本 隆博

人吉商工会議所 副会頭：北 昌二郎

（一社）ひとよし球磨青年会議所 理事長：吉田 和樹

国土交通省 八代河川国道事務所長：星尾 日明

熊本県 球磨地域振興局 局長：中川 太介

【資料2 令和8年度事業推進体制】

(溝口 PM)

- ・本事業の推進体制は、「まちづくり推進会議」「まちづくりデザイン会議」「タスクフォース」の3層構造である。
- ・タスクフォースは各エリアやテーマごとに設置されており、全体の企画方針の検討やハード整備のデザイン監修を行う。
- ・タスクフォースの提案をデザイン会議に諮り、専門家や各分野の行政担当者が集まるデザイン会議で具体策を検討した上で、推進会議へ提案する。そして、推進会議にて最終的な意思決定を行う。
- ・各エリアでは必要に応じて社会実験を実施する。社会実験においては、まちの担い手として広く市民や事業者に参加してもらうことを目指している。
- ・公民連携事業は、今年度は青井・人吉駅前・うぐいす温泉を重点エリアとしてサウンディングを進めていく。
- ・社会実験全体を統括するチームが、全体調整・検討支援・担い手発掘支援を担う。
- ・全体の取組が市民や事業者にも広く伝わるよう、情報発信チームも連携して活動を行っている。

(2) 今年度の会議・全体の進め方

【資料3 令和8年度事業推進体制】

(田村政策統括監)

- ・推進会議については、昨年度と同様に年3回の開催を予定している。
- ・デザイン会議については、月に1回開催する。
- ・デザイン会議に諮る議題については、各タスクフォースにて随時検討を実施する。
- ・デザイン監修に関しては、ハードのデザインや仕組みづくりについて随時実施する。
- ・情報発信については、市民や地域の方々へ広く丁寧に伝える取組を随時行っていく。また、昨年度の取組に関する年次報告書を現在まとめているため、こちらも近く発表する予定である。
- ・市民に対しては情報発信だけでなく、様々な対話の機会も検討しており、今年度は交流会や出張説明・議論の会などを予定している。
- ・社会実験に関しては、昨年度多く実施した。現在は中川原公園の工事をはじめ、様々なハード整備が進んでいる。今年度は昨年度の検証結果を踏まえ、一部の社会実験を継続する。具体的には、球磨川の大橋左岸側において、継続的に道路を活用するための制度化に向けた実証を継続する。また、大橋の上の歩道部分を活用した居場所づくりの実証や、中心市街地で今後整備予定の新しい公園「紺屋町公園」における雨庭整備に向けた実証を行う予定である。
- ・青井、中心市街地、中川原公園などにおけるハード整備は、現在順調に進んでいる。
- ・これまでの検討経過を踏まえ、公共と民間が一体となって投資を進めるエリア開発に関しては、「青井エリア」「人吉駅前エリア」「うぐいす温泉エリア」を中心に、公民連携に向けた事業者からの提案を募る準備を進めており、今年度計画や仕組みづくりを行っていく。
- ・社会実証の結果を踏まえ、人々の集まる場所づくりとして「まちなか図書館」の供用を開始する。肥後銀行人吉支店の1階を活用し、7月頃のオープンを目指して現在準備を進めている。

【資料4 中川原公園護岸工事について】

(松本調整官)

- ・八代河川国道事務所が令和4年に盤下げ工事を行った。その後、人吉市による災害復旧工事が行われ、令和7年度から八代河川国道事務所による護岸工事に着手した。今後は中川原公園から球磨川に

アクセスできるようになる階段 7 カ所、スロープ 2 カ所を整備する予定である。昨年度から今年度にかけて上流側の護岸工事を実施し、その後は下流部の工事へと進めていく。

【資料 5 まちなか図書館について】

(田村政策統括監)

- ・ 昨年、肥後銀行 1 階を活用し、官民で図書機能を持ったサードプレイスを設置した。これを本格的に実装する。
- ・ 5 月に公募型プロポーザルを実施したところ 2 事業者から応募があり、8 名の委員で審査した結果「村と株式会社」が選定された。
- ・ 人吉市図書館から本を一定数持ち出し、館内で読めるようにする。
- ・ 市役所、市民の有志、県、国が連携して、このサードプレイスの整備・運営を行う。
- ・ 本の整備を含め、流域の取組と合わせて近日中にオープンする予定である。

■質疑応答

(吉田(和)委員)

- ・ デザイン会議の委員名簿を見ると、民間の団体や事業者が少ないと感じる。委員はどういった基準で選ばれているのか。

(溝口 PM)

- ・ 公民連携の事業が本格始動した後に、民間の事業者にも随時入ってもらうことを想定している。現在はハード整備の局面が多い。また、商工会議所は民間企業とのつなぎ役を担っているため、既に参画してもらっている。

(吉田(和)委員)

- ・ 民間の事業者に参画してもらう際には、具体的にどのようにお声がけをするのか。

(溝口 PM)

- ・ まちづくりの担い手となる方々を中心に、委員への就任をお声がけしたいと考えている。

(吉田(和)委員)

- ・ 担い手以外の方に対しては、どのようにお声がけするのか。

(溝口 PM)

- ・ 担い手となる方々のみお声がけをしていきたいと考えている。公募ではなく、実際に事業をやっている人に声をかける。

(吉田(和)委員)

- ・ 改めてこの件について協議いただき、今後の体制に反映してもらえるとありがたい。

(星野座長)

- ・ 座長としての考えを述べる。デザイン会議は「こんな事業ができると良い」と将来像を話し合う場である。そのため公募前の議論を行う性質があり、デザイン会議に参加した事業者はその後の公募に参

加しにくくなる懸念がある。したがって、デザイン会議に個別の民間事業者に入ってもらうかは慎重に判断する必要がある。一方で、タスクフォースや社会実験については、事業者にも積極的に参加してもらうのが良いと考えている。

(永田委員)

- ・星野座長の話は分かりやすかった。ただ市民感情としては、デザイン会議にも厳選してもらって民間の事業者が入る必要があると感じるだろう。そうしないと後になって市民から「聞いていなかった」という意見が出てきかねない。金融機関も資料に入っているが、実際は入っていない。また、今の話でいくと、例えば照明の専門家について、現在は社会実験のフェーズだから参加してもらっていると思うが、設計や工事など今後フェーズが変わればデザイン会議のメンバーから抜けてもらわなければならないとなる。「なぜいつまでもこの専門家がいるのか」という指摘を受ける可能性がある。
- ・また、まちなか図書館についてはとてもよかった。ただ、1階にあって入りやすいという側面はあるが、水害で浸水してしまう可能性が高いため、1階に設置することは避けたほうが良いのではないかな。

(井上部長)

- ・まず、公明性、公平性が大事であると考えている。また、デザイン会議に民間の事業者が入ったほうが良いのではないかなという意見は、様々な場所からいただいている。
- ・デザイン会議に係る専門家についてはプロポーザルで選定し委託しており、今後の詳細設計や工事などは地元への発注を想定している。専門家にはデザインの監修を担ってもらうイメージである。
- ・まちなか図書館の浸水懸念については、いざという時は2階の会議室に本を避難できるようにしたい。退避するタイミングなどは運営委員会で議論する。今後は水害時の動きも含めて、この3年間で何をすべきか見極め、今後のまちなか図書館の在り方を検討していく。

(北委員)

- ・まちなか図書館を1階に設置することについては、前回の水害は100年に1度の規模であるため、今後なかなか起こらないと想定すると1階への設置自体には賛成である。ただ、図書には思想的に偏った内容が入らないようにしてほしい。社会実験時の「ひとはこ図書館」は個人の本を集める取組だったが、今回は図書の内容を厳選してほしい。

(井上部長)

- ・以前の「ひとはこ図書館」では多種多様な本が集まっていた。今回は、図書館の蔵書から厳選し、現時点では約600冊を設置すると伺っている。固定的でなく、中身も入れ替えていく予定である。また、今回も「ひとはこ図書館」のブースを一部設ける予定だが、どのようなスペースにするかは運営委員会等で皆様の意見を聞きながら進めていきたい。

(北委員)

- ・個人の持ち込みスペースも設けるということは理解した。その上で、内容は十分に厳選いただきたいと思っている。

(吉田(和)委員)

- ・デザイン会議の委員には人吉市外の人が多い。これでは市民の意見が反映されるか疑問である。地元

の事業者などが中に入る必要があるのではないかと。

- ・また、交流会を実施する予定とのことだがまだ開催されていない。本来はこうした交流会で意見交換を行った上で市民の意見を吸い上げ、その内容を推進会議に反映させる必要があるのではないかと。
- ・さらに、まちなか図書館の審査員について「選定委員は学識経験者及び民間から3名、市職員5名の計8名で審査」とあるが、その根拠となる資料はあるか。

(溝口副市長)

- ・市民の意見を聞く必要はあるが、事業について深い理解がある人がデザイン会議の委員となるべきだと考えている。そのため、第三者の事業者にはデザイン会議の委員になっていただく予定はない。また、第三者となる市民・民間事業者の方々から客観的な意見をもらう場がこの推進会議であると考えている。
- ・デザイン会議の組成（交流会を含む）については、まちづくり事業に関連されており、その方々のご意見を聞かなければ公民の事業が成り立っていかないという方々にお声がけしている。ここで決まったことや方針については、推進会議でご理解を得ながら進めている。

(井上部長)

- ・まちなか図書館の事業者選定については、「人吉市が発注する契約に関するプロポーザル方式等の実施に関する指針」に基づいて行っている。その指針の中で、選定委員は原則として市の職員の中から市長が任命することと定められている。ただし第5項として、審査を行う上で学識経験者等が必要と市長が認める場合は、職員以外を任命できるという規定がある。今回のプロポーザルでは、専門性と多様な視点から判断するため、副市長と市職員部長級計5名、社会実験に携わった団体2名、学識経験者1名の計8名で実施した。審査の決定は選定委員会で行っており、デザイン会議では決めていない。プロポーザルの選定や入札のプロセスには、デザイン会議は一切関与していない。

【審議事項】

(1) 昨年度の振り返り・今年度の取組予定

【資料6 まちづくりフロー】

(星野座長)

- ・令和6年度はアクションプランを作成した。令和7年度はそのアクションプランに基づいて社会実験等の取組を実施した。
- ・昨年度はタスクフォースを90回実施し、その中でデザイン監修も行った。色々な事業が同時多発的に起こる中で、人吉らしい統一感のある整備をするためにはどのようなことをすべきかを議論してきた。例えば青井エリアにおける道路照明や無電柱化などであり、西部公園のデザインについては地元の方と議論しながらプランをつくり上げた。
- ・これまでの公共事業は「ものをつくってから利用する」というプロセスが一般的であったが、今回は「まずは使ってみてからつくる」というプロセスを採用している。
- ・その考えに基づき社会実験の担い手と会議を重ね、59の企画を実施した。
- ・その59企画に対し、アンケート、ヒアリング、交通量調査など様々な検証を行い、社会実験の効果を測定した。中川原公園では、使いやすさだけでなく「片付けやすさ」なども検証し、使い方を支える工夫や仕組みを検討した。
- ・また社会実験については、既に事業化や設計に向けて動いているものと、引き続き社会実験が必要なものとに整理を行っている。

- ・昨年度までの動きは3月15日のまちなかフォーラムで発表した。その時に公表した資料について、現在は年次報告書として改めて作成しているところである。

【資料7 今年度の取組予定】

(星野座長)

- ・タスクフォース毎に今年度実施することを整理している。
- ・昨年度は様々なことを検証しなければならなかったため多角的にトライしたが、今年度は内容を取捨選択して進めていく方向である。
- ・青井エリアではおくunch祭りや各種企画があるため、それらと連動しつつ、土地区画整理事業のスケジュールに間に合うように設計を進める。
- ・公共の場を有効に使うためには民間の活力が必要である。より良い場所にするために、公民連携事業を実施したいと考えている。
- ・中川原公園周辺では、昨年度は中川原公園に重点的に取り組んだが、今年度は大橋で日常的な居場所づくりを実施したい。
- ・昨年度は「球磨川アクティビティ」として、川でのアクティビティや川の安全教室を実施した。参加者には好評であったが、担い手を確保することが大変であるという課題も見えた。球磨川を流域圏全体として捉え、国や県の活動とも連携しながら、流域圏としての取組を展開したい。
- ・景観形成については、人吉の景観がこれから大きく変わっていく。まずは青井エリアをケーススタディとして人吉のまちなみを議論し、ガイドラインを作りたいと考えている。

【資料8 担い手との関わり方】

(星野座長)

- ・「担い手」とは、主体的に参加してくれる方のことである。何らかの活動が行われた時にそこへ遊びに行くことも大事な参加だが、企画・活動をしかけたり、あるいはサービスを提供する側に回ったりしてくれる方々を担い手と呼んでいる。あるいは、行政とともに何かをつくったり、関与・運営してくれたりする方々が担い手であると認識している。
- ・今年度の担い手の方々との関わり方については、大きく3つの取組を考えている。
 - ・1つ目は「交流会」である。7月から8月頃には第1回の交流会を実施したいと考えている。交流会では、まずは昨年度に参加・協力してくださった担い手の方々を中心として、昨年度の反省を踏まえ、今年度以降にどのような可能性や広がりがあるかについて議論や意見交換を実施する。
 - ・2つ目は「出張説明」である。これまで様々な関わり方の機会を設けてきたが、会場に来られない方も多く、参加へのハードルが高かった面もある。そのため、今年度はこちらから出張して話をしに行く機会を作りたいと考えている。「うちの地域にも話しに来てほしい」といった要望があれば、積極的に意見を聞きに伺う。
 - ・3つ目は、毎年行っている全体会「まちなかフォーラム」である。昨年度は134人の方に参加してもらったが、それでもなかなか情報が届いていないという感想をいただいている。どのように実施するのが最も適切かについては、さらに検討していかなければならない。

■質疑応答

(永田委員)

- ・「球磨川テラス左岸」は常設化へ移行するとのことだが、これまで具体的に何を実施してきたのか。

(泉 PM)

- ・球磨川と胸川の合流地点である「りんどう・御麵」の前での取組を指している。現在は車の進入を制限し、滞留空間として使用している。事業者や周辺の関係者らが自ら清掃をしながら、昼夜問わず日常的にテラスとして開放している。この取組は非常に好評であり、河川の管理や安全上も問題ないだろうということで、常設できるように河川や道路の制度設計を進めているところである。

(永田委員)

- ・承知した。「球磨川テラス右岸」では鮎の塩焼きをすると聞いていたが、それは昨年実施したのか。

(泉 PM)

- ・昨年は1日だけ実施した。本来はもう少し実施する予定だったが、鮎を焼く職人の方との日程調整がつかず、1日のみとなってしまった。議論の中では「もう少し日常的に使えるようにした方が良いのではないか」という意見もあったが、今年度それを継続して行うかはまだ決まっていない。実施する場合は社会実験として行う。

(永田委員)

- ・鮎の塩焼きも再び実施するということか。

(泉 PM)

- ・川沿いの空間を滞留空間として活用することが大きな目的である。あの場所は目の前に川を眺められる非常に気持ちが良い空間なので、まちの方が少し休憩できたり、お弁当を持ってきたり、高校生が学校帰りに立ち寄って話ができるような場所にしたいと考え取り組んでいた。鮎焼きのためだけにやるというよりは、皆さんが使える空間にするための取組で、そのコンテンツの一つとして鮎を焼くという試みを昨年実施した。

(北委員)

- ・昨年度の社会実験が1ヶ月の期間に集中したのはなぜか。集中して実施したために、なかなか市民に伝わりきらなかった部分があるのではないかと。また、担い手の方々との交流は非常にうまくいっているが、そのつながりを今年度以降も続けていけるのかが気になる。説明からは「令和7年度でやったことは令和7年度で終わり、次は令和8年度」というような印象を受けた。ぜひ昨年度の担い手が今年度にもつながっていくような配慮をしていただきたいし、せっかくの社会実験なので、もう少し年間を通して市民が参加できるものになってほしい。

(星野座長)

- ・その通りだと思う。年度ごとにリセットするようなやり方は一番避けるべきである。参加してくださった方を大切にしながら、どのように参加者を増やして活動を盛り上げていくかが大事である。

(泉 PM)

- ・昨年は59の社会実験を行ったが、その前に社会実験の実行委員会を5回実施した。第1回は6月に開催したが、前年度からの声かけの成果もあり社会実験の提案数が非常に多かった。実施エリアが多かったため、エリアを選んでもらい、担い手のアイデアの実現や社会実験同士の連携方法などを模索するため、担い手一人ひとりとコミュニケーションを取るのにかなりの時間を要した。また、夏場は暑いため、気候が良い秋の季節に社会実験が集中したという背景もある。

- ・ただ、10月以外にもいくつかの社会実験は実施されており、それらを包括して「HITONOWA ACTION」として展開し、多くの方に現場で体験してもらった。その検証結果を取りまとめ、「まちなかフォーラム」で結果の共有を行っている。
- ・今年度は特定の時期に集中的に実施するのではなく、球磨川テラス左岸での社会実験やまちなか図書館などの運営は通年での実施を予定している。
- ・また、今年度から公民連携事業がスタートする。青井エリア、駅前エリア、うぐいす温泉エリアにおいて、民間事業者とともに事業を開始する。これは社会実験というよりは、実際の事業化に向けた動きであるとイメージしていただきたい。

(北委員)

- ・事業が行われた後に、市民から「知らなかった」という声をよく聞く。広報において、市民への周知を徹底することは非常に重要である。

(星野座長)

- ・出張説明については、市民の皆様から声をかけてもらう形が双方にとって良いと思う。ぜひ積極的にお声をかけていただきたい。

(柴田委員)

- ・やはり取組が市民全体になかなか広がっていないという点が、皆様の共通の懸念であり課題であると思う。出張説明もその解決策の一つである。広報活動も社会実験に合わせて色々な手法で行っているが、どうしても届かない層は当然いらっしゃるため、そこをどうフォローしていくかは引き続き大きな課題である。私はインターネットや広報誌、瓦版など色々な方法はあるものの、「現場を見てもらう」のが一番早いと考えている。日常の暮らしの中で現場を見て「変わってきている」と感じてもらうのが確実である。今後いくつかの常設化が進むため、それがまた一つの入り口になっていくと良い。

(永田委員)

- ・昨年度、北氏が音楽フェスを実施したが、郡部の人などそれを知らない人も多かった。個々の事業者だけでなく、市の職員も一緒に動いてくれる方が、今から始める人もありがたいと思う。持続可能な運営体制を検討してほしい。音楽フェスについても収益や駐車場等の検証は行っているのか。

(泉 PM)

- ・アンケート調査や駐車場の調査を実施している。その内容は3月のフォーラムでも報告した。
- ・今年度の社会実験では特に駐車場を課題としている。昨年度は駐車場が満車で次にどこへ行けばいいのかわからないということがクレームになっていた。今年度はサイトを見ればリアルタイムで状況が分かるような仕組みを検討中である。

(永田委員)

- ・音楽フェスの実施による経済的な波及効果はあったのか。例えばどのくらいの人が宿泊したのか。

(泉 PM)

- ・アンケート調査では、回答者の3割程度の方が宿泊したという結果だった。

(星野座長)

- ・ 県外から 4 割の方が来ている割には、宿泊が少ないという見方もできるかもしれない。しかし、逆に言えば今後のポテンシャルがあるとも捉えられる。

(泉 PM)

- ・ 元々は中川原公園で社会実験を実施することを検討していたが、公園が盤下げされたことによって増水時に設置物を撤収しなければならないリスクや動線確保の難しさがあり、中川原公園での実施は困難となった。

(柴田委員)

- ・ 社会実験の結果は一般に公開されるのか。

(泉 PM)

- ・ まちなかフォーラムにおいて検証結果を公表しているが、今年度「年次報告書」という形で改めて編集し、公開する予定である。

(中川委員) (代理出席)

- ・ 県では音楽フェスの取組に対して補助金を出すというかたちで関わらせていただいた。北氏ともやり取りをしたが、「時期が良すぎて地域の旅館が満室で泊まらなかった」という話も伺っている。

(松岡市長)

- ・ 審議事項（１）に関して、承認ということで問題ないか。

(委員)

- ・ 承認

（２）公民連携基本計画・今年度の進め方

【資料 9 公民連携基本計画】

(田村政策統括監)

- ・ 公民連携基本計画は、公共と民間が一体となってこれからのまちづくりに取り組んでいくための基本的な計画として定めたものである。
- ・ 「本市の都市経営課題」としては、水害後に空き地が増加していることやインフラの老朽化があり、それによって地域の魅力が低下してしまっているという課題がある。また、それに伴って民間の方々の投資意欲も冷え込み、担い手が不足している。その中で民間の担い手をどう増やしていけるかが大きな課題である。
- ・ そのような状況において、アクションプランでは「暮らしの満足度向上」と「観光地としての魅力向上」、そして「安心安全のまちづくり」のすべての実現を目指して取組を進めている。その中核となるのが公民連携によるまちづくりである。
- ・ 行政においては、公共資産を活用してこれに対応していく。条例などによる規制の緩和や、様々な制度設計を進めていくことが基本となる。
- ・ 民間の方々に対しては、自らのビジネスをしっかりと進めてもらうことは大前提であるが、この公民連

携の中では、公共的貢献の精神を持ってもらうことや、公共事業をうまく活用して稼いでもらうといった関係性を築きたいと考えている。民間が持つ稼ぐ力や自由にビジネスができる環境を活かし、一体的に経営的な視点を持って持続的な事業を進めてもらいたい。この公と民の2つの機能を組み合わせながら進めていくのが公民連携である。

- ・そもそも公民連携とは何かということを整理している。公共の事業に関しては、これまでも指定管理や業務委託を行ってきたが、この公民連携の中では市としての財政負担も課題となるため、民間の稼ぐ力を取り入れる上でいくつかの類型を整理した。
- ・1つ目は「公有地を使った民設民営事業」である。行政が土地を提供し、民間事業者が建物を建てて事業を実施する方式である。
- ・2つ目は「民間が新設・増設・改修（リノベーション）する施設の一部を市が買取り又は賃借するもの」である。
- ・3つ目は「スモールコンセプション（遊休公的資産の利活用）や公共空間活用事業で、現状の維持管理費と同等以下で、利用価値が高まるもの」である。現状、公園などの維持管理経費が一定程度かかっているが、民間のノウハウにより現状以下の金額でさらに利用価値が高まるような運営を進めてもらうことを考えている。
- ・全体を通じて、公と民が連携することによって社会的な費用対効果が高まるものを公民連携の基本として考えている。
- ・今年度から各エリアで代表となる対象を定め、この公民連携によって事業投資を募る場所を選定していく予定である。現在は「リーディングプロジェクト」として、先行的に進めていく最初のエリアを5つ挙げている。①青井阿蘇神社周辺、②人吉駅前、③うぐいす温泉跡地周辺、④中川原公園、⑤石野公園である。
- ・まずは先行プロジェクトとしてこれらの場所を対象にしながら、これから一緒に投資をしてくれる民間事業者を募集していく。募集だけでなく、「サウンディング」という形でこちらから事業者のもとへ伺う予定である。今後はこの公民連携のプロジェクトをどんどん広げていきたい。
- ・選定プロセスのパターンについては、事業者の方々の意見やこれまでのプロセスを整理しながら詳細化していく予定だが、大きな流れとしては、まずこれらの土地で事業を実施するにあたり「どのような事業が考えられるか」「どのような条件なら事業が可能か」を民間との対話を通じて調べる「サウンディング調査」を実施する。それによって、公民連携という手法での事業化の可能性があるかを見極める。場合によっては、公民連携では民間にとって投資リスクが大きすぎて難しいというケースも考えられるため、そうした両面での意見をいただきながら最適な手法を検討していく。
- ・その上で、公民連携で進めると判断した場合には、今後「審査委員会」を設置する。その場において、どのような条件で公募をするのが良いか、あるいは非公募の方法が良いのかも含めて検討し、実施方針を定めた上で各エリアの開発事業者を募集していく。
- ・今後の開発にあたっては基本的には公募と考えているが、非常に優れたノウハウを持っている場合や、その事業者にしか到底できないと確認されるものがあれば、審査委員会の中でしっかりとしたプロセスを踏んだうえで、非公募による協議を進めて契約を締結したい。
- ・こちらの資料に関してはホームページで公表している。市内だけでなく、県内や九州全域へ広げていき、人吉での事業投資に意欲・関心がある方を広く募集しているところである。そうした方々からの声もいただきながら具体的な選定プロセスを定めていき、まちなかの今後の開発と合わせた民間の方々との一体的な投資事業が進められるよう取り組んでいく方針である。

■質疑応答

(福川委員)

- ・現時点で、具体的な事業者から話は受けているのか。

(田村政策統括監)

- ・話を受けた事業者はいる。事業投資に関する意欲については事前にいくつか相談をさせていただいており、「こんな事業ができれば良いのではないか」という声を現時点でいただいている。開発の中で、土地の取得など市としての役割によって事業条件が変わってくる部分もあるため、その進捗に合わせて調整していく。このような計画を定めたので、プロセスの進め方への理解をいただきつつ、候補となる事業者の方々と調整を進めたい。具体化に向けてプロセスの透明性や適切性も合わせて担保しながら進めてまいりたい。

(柴田委員)

- ・市民の皆さまに広く知っていただくことが重要であると思っているので、そこをしっかりと取り組んでいただければと思う。

(吉田(力)委員)

- ・うぐいす温泉跡地は市が取得したと聞いているが、どのような構想を持っているのか。

(井上部長)

- ・市が取得した。現在は広場として計画している。水害以降、うぐいす温泉周辺を「交流文化の場」として位置づけている。したがって、何らかの交流や文化の核となる施設が必要ではないかという意見も踏まえ、今後は社会実験の検証結果も参考にしつつ、サウンディングによる民間業者からの提案を含めてどういった施設がふさわしいかを模索していく。方向性がある程度決まれば、デザイン会議や推進会議にお諮りして決めていきたい。

(吉田(力)委員)

- ・先日、田村政策統括監に「足湯をつくってはどうか」と提案した。足湯であれば周辺の旅館ビジネスへの影響はない。うぐいす温泉には泉源もあるため、行政がしっかりと投資をして魅力的な空間となるようにしてほしい。

(田村政策統括監)

- ・水害の影響により当時の泉源をそのまま使うことは難しい状況だが、温泉文化は人吉にとって非常に重要な魅力の一つである。まちなかの方々だけでなく観光客の方々にも非常に喜んでいただける重要な要素だと思っているので、今後事業者とサウンディングしながら、吉田委員の意見も踏まえて意欲ある事業者にお声がけをして相談していきたい。

(中村委員)

- ・人吉駅周辺に空き地になっている場所がある。年に2回ほどはシルバー人材の方に草刈りをしてもらっている状況。現在売り地になっているため、行政の方で取得してほしい。駅前の駐車場もSLにより不足している。おくんち祭りの際も臨時駐車場として使えるのではないか。

(井上部長)

- ・この会議を昨年から実施しているが、必ず駐車場の問題やご意見は出てくる。これだけの開発をまちなかで進めていく中では、駐車場の確保は避けて通れない課題だと認識している。青井地区や中心市街地を含め様々な候補地があるが、回遊性という観点からどこが場所が良いか検討が必要である。今年度の予算において、駐車場の設置可能性を探るため、空き地を駐車場とする社会実験の費用を認めていただいた。そのため、どのようなイベントでどれくらいの台数が足りないのか、どの時間帯で満車になるのか等を計測しながら、駐車場問題の解決を図っていききたい。

(井上委員)

- ・以前のまちなかフォーラムが非常に賑やかだったのが印象的だった。若い方が多いことも印象的であった。市外の方もいらっしゃったが、球磨川テラスなどの取組を見て「自分も何かやりたい」という人もいる。新しく何かしたいという人がいれば市として受け入れるのか。
- ・また、出張説明について、私が住んでいる地域は田舎のためまちなかの話をしても人は集まらないのではないかとと思っている。

(田村政策統括監)

- ・市外など他の地域からの受け入れについては、球磨川流域圏という考え方が大切である。球磨川を契機にしているまちづくりは、山の方の森林が豊かであることが大事であり、それが中心部の賑わいにつながっている。そのため、人吉の力を感じて何かやってくれる人が外からでも入ってくると良いと考えている。もちろん人吉の人がベストであるが、人吉を中心に広く受け入れていきたい。

(松岡市長)

- ・石野公園についてもご指摘やご要望をいただいている。良い場所にできるよう注力したい。また、歴史的な背景に関する議論もあるため、そこについても今後井上委員にご指導をいただきたい。

(宮本委員)

- ・「タスクフォース」というネーミングの意図を聞きたい。私の認識では、直近の課題に向けたスペシャリストの集まりで短期的なチームという印象があるが、本事業は令和5年度、6年度、7年度とある程度中長期的な期間の取組である。これが「プロジェクトチーム」ではなく「タスクフォース」というネーミングにされた意図や狙いがもしあれば教えてほしい。

(星野座長)

- ・タスクフォースというのは本来「特殊部隊」のようなものなので、具体的な課題に取り組んで迅速に解決するチームを指す。この仕組みを立ち上げた当初、水害からの早急な復旧・復興の中で将来のまちづくりを議論しなければならないという状況であった。本来まちづくりというのは長い時間をかけて丁寧に議論していくべきことだが、そうした視点とともに、土地区画整理事業などの事業が進む中で緊急に対応しなければいけない部分もあった。そのため、立ち上げ時には早く動くというニュアンスを強めて、タスクフォースと名付けた背景がある。もう一つの理由は短期性だけでなく具体性を持たせるためである。デザイン会議のような全体を統括する場だと理念的な議論が先行しやすく、具体的なアクションが起こせなかったり後手に回ってしまったりすること多い。そのため具体的に進めることと全体のバランスを両立させることが大事であり、現場で汗をかくというニュアンスも強めてタスクフォースという言葉を使った。

(松岡市長)

- ・審議事項（２）に関して、承認ということで問題ないか。

(委員)

- ・承認

(柴田委員)

- ・昨年度は様々な社会実験が動いた。今日の推進会議は皆さまから積極的な意見が特に多く出た回であったと思う。これをぜひデザイン会議やタスクフォースに反映していただきたいし、私としても引き続きアドバイスをしていきたい。また今後も関心を持っていただきつつ、色々なプロジェクトにもぜひ参画していただければと思う。

(松岡市長)

- ・本当に活発な議論をいただき感謝する。誰かがやるだろう、どうにかなるだろうではなく、今日の皆様の意見のように、それぞれが当事者として関わっていただくことによってまちづくりは仕上げられるのだと思っている。引き続きの理解と協力をよろしくお願いします。

(事務局)

- ・以上をもって、第１回人吉市まちづくり推進会議を終了する。

以上